

◎本会の動き◎

☆「第1回上席化学工学技士交流会」大阪で開催☆

昨年と本年の2月に化学工学会本部で「技士の集い」が開催されました(参照:山田明,「第2回技士の集いに参加して」,化学工学,第78巻, No.6, 418 (2014))。しかし,開催場所が東京ということもあって参加者の大半が関東地区の方々であり,関東以外の地域の方にとっては,これをきっかけに技士の交流が始まるということには至りませんでした。そこで,技士の交流を近郊の技士の交流から始めることができないかと関西地区の有志が準備会を設け,人材育成センター資格制度運営委員会シニアアドバイザーである大阪大学名誉教授の平田雄志先生を中心に話し合ってきました。そして近隣の関西,東海,中国四国地区の上席化学工学技士の方々に呼びかけ,平成26年7月30日(木)15時から大阪科学技術センターで上席化学工学技士交流会を試行的に開催する運びとなりました。

当日は,関西地区,中国地区,東海地区から上席化学工学技士8名が参加し,平田先生,化学工学会人材センター担当者の2名を加えて,計11名の少人数ではありましたが,和やかに会を進めることができました。交流会発足の経緯・趣旨の説明の後,平田先

生から「化学工学会の資格制度と技士交流会への期待」と題する講演がありました。その後,参加者全員が自己紹介の後,上席化学工学技士としての交流会への思いや今後の進め方についてフリーに語り合いました。そこでは参加者で,「色々な共通な話題を選んで話し合ってみよう。刺激的な話は脳の活性化にもつながる。問題点の切り口や解決実施例などの経験談は貴重である。それらの話の中で化学工学の特長が確認でき,社内のエンジニアリング教育にも活かせるのではないかと。また,モノゴトの価値判断の基準や企業文化を知ることもできる」とか「知財関係の制約を受やすい話題については,知恵を出し合い上手く対処すれば話し合えるのではないかと」等々,和やかにしかも活発に意見が交わされました。また,今後も徐々に参加者が増えるように交流会を継続していきたいと,参加者同士の意思確認もできました。その後,交流会は場所を変えて懇親会へと続けました。そこではさらにアルコールも少し入り,お互いの人柄にも触れて親密感も増し,次回には必ず皆が参加してこの会を発展させていこうと約束してお開きしました。

この交流会が,化学工学技士個人のさらなる技術・見識の向上に繋がり,また化学工学会が認定する資格を魅力あるものにし,資格制度の発展の一助になればと思っております。

さらに仲間を助け上席化学工学技士の交流会を継続していきたいと願っておりますので,次回は多数の方々のご参加をお待ちします。

(ダイキン工業(株) 森 和雄)



交流会場風景